

## ソーシャルワークから得たもの

社会福祉学部 社会福祉学科 2年

地域福祉コース 山崎ゼミ

鈴木絵未里

### ① 自分の成長と気づき

私が、このサービスマーキングを通して成長したと感じたこと、気づいたことは、三日間の体験になってしまいました。私たちはなかなか自分たちで動くことができずに担当の方の指示を待っていることが多くあり、それでは社会に出たときに苦勞するということを思い知らされた。このことをきっかけに私は自分から仕事を見つけ少しずつ行動ができるようになったと感じた。また、わからないことや疑問に思ったことは積極的に聞きに行くことが大切だと感じた。自分ひとりでは考えられないことも福祉の現場ではみんなで意見を共有することでいくつかの課題点や疑問点を解決することでたくさんのわからないことなどが減っていくのである。私は、積極的に人前などで話すことが苦手であまり話しかけることができなかつたけれど福祉の現場ではそれではいけなく何か話す話題をつくり、やさしく相手にわかりやすくその場を盛り上げていくことが必要だと気づいた。一人で話してはいけなくても周りの方と一人一人に寄り添いながらその人にあつた話題を持ちかけてあげることが大切である。こういったことから、福祉の中では、自分から何かの話題をつくり一人一人に積極的に話しかけてあげてその場を楽しいと思えるようにすることも必要なのだと感じた。このことから、私は人前で話すことが苦ではなくなり、何か自ら話題を広げて楽しませることができるようになったことは私の成長である。

### ② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

私は、活動を通して地域住民を大切にしておかかわりを持っていくことによりその地域の活性化ということが今後の課題である。活動先で行ったこととしては地域でのお祭りを企画してそれに出店して多くの人を迎え入れるということである。その企画は地域に根ざしよりよいまちづくりによって地域の人を集めて地域活性化を目指していくということが目的であり、こういった活動によって地域の活性化に一歩ずつ近づけていっているのを感じた。地域を活性化するためには多くの人に声をかけ祭りに来て楽しんでもらうことが必要であり、子供から大人までが楽しめるような企画を考えるということはとても難しいけれど考えて次にもまた来たいと思えるような企画にしていかなければならないという条件を踏まえたうえで企画を考え出店をしていくことが地域活性化につながるのがある。

こういった条件をそろえることが地域活性化にはひとつであるということがわかりとても難しいと思った。でも、活動先ではこのような活動で地域活性化を目指して取り組んでいる活動だということがわかり、これからもこのような活動により地域のまちづくりに貢

献し今以上に地域が活性化してほしいと願っている。

**\*まとめ\***

私は、このことからこれからは自分に責任感を持ち自分から先頭に立って行動していこうと感じた。まだまだ先の過程では失敗することもあるかもしれないが人は失敗を重ねて成長していくので失敗を恐れずに自分から積極的に行動をすることやグループワークでは意見をだしていくことが私の中で一番求められることだと思った。これからは今以上に成長していけるようにいろいろなことに積極的に取り組んでいきたいと感じた。

## 地域を結ぶ NPO 法人

社会福祉学部 社会福祉学科 2年  
地域福祉コース 山崎ゼミ  
端谷早織

### ① 自分の成長と気づきについて

私はサービスマーケティングで NPO 法人のゆめじろうで活動させていただいた。6 日目の最終日にある龍宮まつりで 1 つのブースを出させていただけるようになって、それに向けて準備を進めていった。私たちはストラックアウトと言う、点数が書いてある穴にボールを投げ入れるという的当てゲームをすることになって、看板や的当ての板、ボールまですべて手作りした。私はストラックアウトを見たことはあったけれど、実際にしたことはなかったので、穴に投げ入れることの難しさや、小さい子はどれぐらいの穴なら入るのかというのを考えるのは難しかった。作るときに「これぐらいなら入るだろう！」と学生同士で話し合っただけで気持ち大きめに穴を開けた。完成した的で試し投げをしたところ、思ったよりも難しく、投げる距離によって難易度が上がることがわかった。学年ごとに距離を変えて投げてもらおうということになった。時間が余ったので、もう 1 つ作ることにした。2 個目は低学年用にして、1 個目よりも穴は大きくした。的の飾りつけとして、ゆめじろうを利用している小学生 2 人に絵を描いてもらった。最初会ったときは、どう話していいかわからずなかなか話しかけられないでいた。職員さんに手伝ってもらいながら、少しずつ話しながら絵を描けるようになった。自分から話しかけなければいけないというのはわかるのだけど、どう話しかければいいのか、どのようにコミュニケーションをとればいいのかかわからないことにそのとき初めて気づいてとても戸惑った。それが私の課題にもなった。本番当日、会場準備から手伝い、いよいよ祭りが始まった。最初は呼びかけもできなくて人が来てくれず、これはやばいと思った。ほかのブースの職員さんの様子を見て少しずつ呼びかけを試みたり、実際に投げて見せたりした。すると、1 人のお客さんが来てくれて、次々にたくさんの人が店の前に並んでくれた。客足が減ることなく、祭りが終わるまで人が来続けてくれていたので、とても大変に感じた。小学生を想定して的を作っていたのだけど、3 歳ぐらいの小さな子も来てくれて、私たちが想定した距離ではどうしても届かないと思ったので、その場で距離を短くしようと変更した。また、なかなか入らない子にはおまけボールとしてもう 1 個ボールを投げてもらおうということもした。1 人では絶対できなかったと痛感したので、みんなですることによって大変よりも楽しいの方が勝るし、いろいろなアイデアが出て「どうしよう」も解決することができる。サービスマーケティングを通して、自分に足りないものもわかったし、みんなと協力する大切さもわかった。たくさんの成長が見られたのではないかと感じた。

### ② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

龍宮まつりは同地区で活動する市民団体や町と共同で開催することになったのだ。1 つの NPO 法人で成り立っているのではなく、一般市民や行政、市民団体など地域の方々と広く関わるのが大切で、そのつながりが地域を盛り上げる。昨年までは 1 つの NPO 法人だけ

です。夏祭りを開催していたのだけど、今年はたくさんの地域の方々と協力していた。そのことによって、地域の方との関わりができ、これからの活性化にもつながるのではないかと考える。実際に参加してみて、私たちのブースに来てくださったのは子どもばかりだったけれど、年配の方も祭りに参加していたので、お互いにコミュニケーションがとれて地域の方にとってもいいのではないかと思った。これからも龍宮まつりは続けていってほしいと思うし、機会があればまた参加したいと感じた。



## 私と知多地区

### ～夏祭りの会議から私が知った現状・対策案～

社会福祉学部 社会福祉学科 2年  
地域福祉コース 山崎ゼミ  
松本 有子

#### ① 自分の成長と気づきについて

私は今回のサービスマーケティングでの活動を通し大きく成長した点がある。それは、「リーダー性」を高め、「責任感」を強く持つことが出来たことだ。私はずっと人に直接意見を言うことがあまり出来なかった。サービスマーケティングが始まってすぐ私はメンバーに意見を言うことがあまり出来なかった。しかし、同じ活動場所に行く他のメンバーもあまり積極的に発言するほうではなく、むしろ消極的なほうであった。事業者の方が見えて話し合いなどをする際なども他のメンバーは下を向いて目を瞑ったままであった。そのような場面になった際は私は先陣を切って話し合いを行い、場を進行する役にも回ることができた。しかしそういっても初めは自分の意見を伝えることに必死であった。しかし、話し合いやサービスマーケティングを重ねるにつれて自分の意見が言える環境が全てなのではないと覚悟することが出来た。そして自分がリーダー性を感じ、同じ活動場所に行くメンバーが話しやすい環境・話し合いの場を積極的に設けることを心掛けた。サービスマーケティングでは主に①夏祭りの企画②夏祭りの準備③夏祭り当日の準備・運営・片付け④YA-YA カフェさんとゆめじろうさんの合同会議⑤YA-YA カフェさんとゆめじろうさんによる合同盆踊り練習であった。当日のブースは自分たちで話し合いをし、ストラックアウトを行うことに決めた。当日では始め積極的にあまり宣伝を自分たちから行うことは出来なかったものの、自分たちがまずはストラックアウトを楽しむことに重点を置いた。私たちが実際に実演して行うことでストラックアウトに1人の子どもが並ぶとたちまち私たちのストラックアウトには人があふれる長蛇の列ができあがるほどだった。そして長蛇の列の中には子どもたちも楽しそうに列に並び待ちわびている様子も見受けられた。私はこの祭りで大学に入ってから地域と疎遠になっていたと身をもって感じた。大学に入ってから、なぜだか「①朝起きる。②ご飯を食べる。③a/講義がある日は大学へ行く。③b/講義がない日はバイトに行く。④帰ってくる。⑤ご飯を食べる。⑥ゆったり、まったりする。⑦お風呂に入る。⑧寝る」というサイクルが自分の中でできているため他のことをすることがあまりない。知多地区に住んでいればデパートすらないため買い物もしようとしてもすることができない。しかしこのような環境こそが地域と関わるためのチャンスなのではないのかと感じた。

#### ② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

大学に入って地域との関わりが疎遠になっていると感じているのは私だけではなく他の人も多く感じていることなのではないのかと感じる。活動を通して私は地区に愛されている NPO はどれほどあるのかとふと疑問に感じた。実際に私の地元では NPO が活動していてもあまり知られていないように感じる。それだけでなく介護施設などでも行う夏祭りなどはほとんどのものがこじんまりとしてしまっているように感じる。小さい地域だからこそ

たくさんの人に呼び込みを行い協力をしていただける環境が作りやすいと私は思っている。小さい地域と言っても今回の活動場所の夏祭りが開催されるにはとても素晴らしい経緯があったのだが。小さい地域だからこそ、その地域の特色を生かせることもあると感じる。今回の活動先の場所を例をあげるならば、有名なうみほたるを手作りしゲストの方が歌ったり、盆踊りなどを行う、メインステージの中心へ置いていたり、歌手は地元で有名な方をゲストとしてお迎えするなどしていた。そしてゲームなどもあるため小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃん老若男女問わず楽しめるものとなっていた。実際に最初の準備の段階から参加する機会が大学生になってからは初めてだった。だからこれからも学校と地域が連携をしてお祭りに学生が参加できる機会が増えればいいと感じた。

## 見方の変化

社会福祉学部 社会福祉学科 2年  
地域福祉コース 山崎ゼミ  
山田 真平

### ① 自分の成長と気づき

サービスマーケティングの活動を通して自分が今まで物事を点だけで見てしまっていたと感じた。それは起こっている事に対してその事だけ見て自分で理解していたということが感じることが多くあったからだ。

特にゆめじろうで活動参加させてもらった時に最初、地域っていうとすぐ福祉や障害というものだけ見れば学べると勘違いして活動してしまっていたと活動を終えて強く感じた。もちろん先生や最初の合同ゼミでもいろんな視点で見られているということは話されていて頭の片隅にはあったが特に気にせずいた。

活動していて初日龍宮祭りの会議に参加させてもらった。そこで役場の方や整体を出すということで地域の整体師の方などもいた。

今考えればそんなことで驚くこと自体自分自身の意識が低かったのかもしれない。

しかしそこでこんなに多くの人が関わっての地域だと改めて感じた。

そして夏のサービスマーケティングの活動の最終日に点で終わらず線になってこそその地域であると思った。

そこから私が1番学んだことは、物事を点だけで見ていたら何の意味もないということである。

点だけ見られていたらそこにあるだけで終わり何も起きない。改めて点と点が繋がって線になることは今回のことだけではなくこれから地域というものを学んでいく時に自分としてはその部分を大切にしたいと感じた。

そしてサービスマーケティングの活動を行なって NPO 法人が思っていた以上に地域との繋がりが多くありそれが濃いことが私は驚いたことだ。

サービスマーケティングを行うまでは NPO 法人は単体で動き、資金とかは政府からきていると勝手に思っていた。

実際サービスマーケティングの活動でゆめじろうに参加させてもらった。その活動の中で龍宮祭りブースを出すという形で参加させてもらった。準備段階から役場の方やボランティアの方がお祭りをつくるために協力をされていた。

お祭りが始まって参加してくださった方と話しても龍宮祭りを楽しみにされていて子供から大人まで交流する場になっていたと感じた。地域との繋がりがかと考えるとケーブルテレビを地域との大切な繋がりとさえ思った。当日ケーブルの撮影をされていてそう感じた。そして大学生の自分たちが参加したことを地域との繋がりと改めて思った。

今回龍宮祭りに名前が変わって初めての開催でしたが今年よりもっと地域の方々や団体と繋がって交流することでお祭りにとどまらず地域の活性化につながると感じた。

サービスマーケティングを通して NPO 法人というのは単体では完結するわけではなく地域住民まで巻き込んで作るもので繋がるものだと強く感じた。

このことから活動を通して一般市民や行政、市民団体などと広く関わるのが大切で、その繋がりが地域を盛り上げることを知ることができた。また利用者やそのご家族と日常的にコミュニケーションを取り、その情報をスタッフ間で共有するなど、一人ひとりを大切にする姿勢にとても驚いた。将来は地域に関わる仕事をしたいと考えているので、これからも何らかの形で活動に参加していきたいと感じる活動であった。

## ② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題

課題として私が感じたのは研究報告をした時に私たちのグループは子どもの貧困について調べた。ゆめじろうに参加した時に障害を持った子どもたちと活動させてもらった時にこの子たちは施設に預けられているけど見方を変えれば、貧困の子たちはそういう支援すら受けるのが難しい状況の子はもっといるのかなと思って調べることにした。

サービスマーケティングを通して私が思った大きな課題は、貧困は連鎖していくもので抜け出すのはとても難しいのが今の日本の現状なのかなと思った。

それは貧困も障害も似たようなことが言えて貧困の子がより稼ごうと思っても現状なかなか難しいものがある。貧困の子が貧困を向け出そうと思って勉強などしようと思ってもまず受けることも難しい現状があることが私は1番問題であり課題だと感じた。

そういったところから支援できる NPO 法人などが必要になっていかないといけないのではないかと私は思った。